

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2015年(平成27年)3月25日(水曜日)

(第三種郵便物認可)

《この人》

一昨年の一般社団法人取得後、宮城を除く東北5県の構造設計事務所連携を

「地方の構造設計専門事務所は、もともと数が少ない。このため、小規模な事務所は後継者問題などで廃業が懸念される」とし、

昨年10月の総会で2代目会長に就任した。「建築設計において構造は、意匠や設備と対等な関係だ。意匠の下請的立場から脱却し、設備設計と同様に分離発注を勝ち取るためにも、会勢を拡大したい」と力を込める。

分離発注へ会勢を拡大

構造設計事務所で働く若い職員に明るい未来を提示したい」と、経営・業務環境の改善に全力を尽くす構えだ。

昨年3月には両団体で、仙台市との間に地震



東北建築構造設計事務所協会会長

井戸川 隆一さん

働き掛けている。さらに事務所存続の危機となる人材確保に向けて、「これまでの親睦団体的な活動から転換し、

その一環として、自ら副支部長を務める技術者団体の日本建築構造技術者協会(JSCA)東北支部と協働して、若手の

災害時における大規模建物の応急危険度判定の協力協定を締結した。「応急危険度判定の新たなモデル。われわれにしかできない業務領域として、しっかりと社会に貢献していきたい」と、安全・安心の守り手としての自覚がにじむ。

1977年3月千葉工業大工学部建築学科卒業後、同年4月に三興設計事務所(東京都中央区)に入社。84年仙台市内に東北三興設計事務所を開設計、代表取締役を務める。趣味は溪流釣り。福島県小高町(現南相馬市)出身、63歳。

2015
3月27日
金曜日

建設新聞

発行所 建設新聞社

本社	仙台市青葉区春日町7-5	TEL022(221)4601(大代)
青森支局	青森市古川1丁目21-11	TEL017(722)8631代
岩手支局	盛岡市菜園1丁目3-6	TEL019(651)8045代
秋田支局	秋田市山王4丁目3-10	TEL018(862)6921代
山形支局	山形市松波1丁目10-16	TEL023(641)2800代
福島支局	福島市宮下町17-20	TEL024(534)0138代
東京支局	東京都江東区豊洲1-3-2	TEL03(5547)1367



リアル ショット

構造屋の未来示したい

東北建築構造設計事務所協会会長

井戸川 隆一氏
いどがわ りゅういち

◎：昨年10月の総会で
2代目会長に就任した。

燃やす。

構造設計界をめぐる課題
について「昔から3Kと
言われ、今も変わらない。
若い人を育てるには時間
と金が必要」と指摘。「衰
退に歯止めを掛け、構造
屋の未来を示したい」と
業務環境の改善に意欲を

◎：具体的には意匠、
構造、設備を分けて業務
報酬基準を示した告示15
号を実効性のあるものに
するため、親会の日本建
築構造設計事務所協会と
歩調を合わせ、「構造設
計屋全体の問題」として
適正な業務報酬の実現に
取り組む考えだ。併せて
日本建築構造技術者協会
と連携し、「構造設計に
興味を持ってもらうため
の構造デザイン発表会
や、技術的なスキルアッ

プを図るための講習会な
どを展開したい考え。

◎：2011年10月に
前身の仙台建築構造設計
事務所協会から名称変
更。宮城県内では構造設
計事務所の約7割が加入
しているが、他県の加入
者は少ない。会員の拡大
に向け、各県の構造設計
事務所と呼び掛け、社会
的地位の向上と経営基盤
の確立を目指す。

◎：1951年11月25
日生まれ、福島県南相馬
市出身。77年千葉工業大
学工学部建築学科を卒業
し、三興設計事務所（東
京都）に入社。84年に「の
れん分け」により東北三
興設計事務所を設立し
た。63歳。

INTERVIEW

東日本大震災では、被災建築物の応急危険度判定などに尽力した一般社団法人東北建築構造設計事務所協会（TSCA）。社会貢献活動などのほか、建築構造設計事務所の主宰者の組織として、業界最大の命題、「分離発注」の実現へ向け動き出した。14年10月に新会長に就任した井戸川隆一氏にお話を伺った。

——協会の成り立ちを。

井戸川 1996年に仙台建築構造設計事務所研究会として16社で設立しました。その10年ほど前に日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部さんが設立され、そこらは技術者の集まりなので、構造事務所の主宰者の集まりをつくり、親睦を図ろうというのが当初の目的でした。当会の会員は、ほとんどがJSCAさんの会員でもあります。その後、04年に日本建築構造設計事務所協会連合会（FASA）が組織され、傘下の当会も仙台建築構造設計事務所協会に名称変更。13年に任意団体から一般社団法人になり、現在の名称になりました。会員は36社です。

——建築構造設計を巡る環境は近年、激変しています。

井戸川 05年に発覚した構造計算書偽造問題は、大きな社会問題となりました。これを受け、07年には建築基準法、08年には建築士法が改

正され、構造計算適合性判定の導入や構造設計一級建築士の創設などがなされました。構造計算書偽造はもちろん悪いことですが、構造一級の創設などにつながり、責任も大きくなり、皆さんに認知していただけるようになったと思います。

——東日本大震災では。

井戸川 震災直後は、仙台市さんとマンシオン関連の応急危険度判定を協力して回りました。当時はまだ法人化しておらず、JSCA東北支

部さんに声掛けされたものを協力して行いました。その後も、JSCA東北支部さんや宮城県建築士事務所協会さんと連携し、被災度区分などを行いました。14年3月には、仙台市さんとJSCA東北支部さん、当協会と「地震災害時における大規模な建築物の応急危険度判定の協力に関する協定」を締結しました。宮城県さんとも、14年秋から、特定建築物の耐震診断の啓発活動を行っています。

——業界の健全な発展とは。

井戸川 これまで、構造事務所は下請け的な位置づけで、ゼネコンさんの下、組織事務所さんの下、意匠事務所さんの下で仕事をしてきました。大幅に見直された国交省告示15号（建築設計の業務報酬基準、09年公示）では、設備や構造まで細かく決めていただきましたが、下請けである以上、厳しい状況です。やはり、分離発注をしていたきたい。設備設計は分離発注されるようになったので、構造設計も分離発注が実現するよう、これから働き掛けていきたいと思っています。

——抱負をお願いします。

井戸川 構造設計一級建築士は、一級建築士として5年以上構造設計の実務に従事したあと、登録機関の講習を修了しなければなりません。若者が一生懸命勉強したことを誇れる仕事にするためには、やはり、意匠、設備、構造がパートナーとしてやっていくのが理想です。業界の最大の命題として、分離発注実現へ努力していきたいです。



井戸川 隆一氏
昭和26年生まれ。福島県南相馬市出身。同52年千葉工業大学工学部建築学科卒業後、㈱三興設計事務所入社。同59年に仙台で㈱東北三興設計事務所設立。代表取締役。JSCA東北支部副支部長、FASA理事。

10年先を見据えて「分離発注」の実現を

東北建築構造設計事務所協会

会長

井戸川 隆一氏



牛たん焼きを
仙台名物にしたお店

味の牛たん

牛たん
きすけ
助